

学生の質問に対する抵抗感への匿名性の影響分析の試み

A Trial to Analyze the Effect of Anonymity on Student's Hesitation to Questions

岡崎 泰久, 脇山 瞳

Yasuhisa OKAZAKI, Hikari WAKIYAMA

佐賀大学理工学部

Faculty of Science and Engineering, Saga University

Email: okaz@cc.saga-u.ac.jp

あらまし：本研究では、大学における授業において、オンラインで匿名での質問を受け付けることが、学生の質問に対する抵抗感にどのように影響を与えるかを調査・分析する。日本では授業中に質問をする大学生は多くない。その理由の一つとして、他者の目を気にすることが考えられる。そこで本研究では、匿名による質問が可能なコミュニケーションツール(Slack)の導入を行う。理工学部一年生を対象とした、Microsoft Teams を利用したオンライン授業において、Slack を匿名で利用可能として、任意で授業への質問やコメントに利用してもらった。その利用状況とアンケート調査結果から、匿名性が、質問へのためらいと疑問点の放置を減らすことへ影響する可能性が示された。

キーワード：質問, 匿名, 抵抗感, 大学生, オンライン授業

1. はじめに

授業における質問は、疑問点の解決や理解の促進につながるとともに、教員へのフィードバックの役割も果たす重要な学習行動であるにもかかわらず、日本の大学生は積極的に質問をすることが少ない問題が指摘され、その要因が研究されている⁽¹⁾⁽²⁾。

昨年、我々は質問に対する学生の意識調査を実施し、その分析の結果、他者を意識していることが示され、匿名による質問を受け付けることで、質問のためらいを軽減できる可能性があることを示し、そのための機能の検討を行った⁽³⁾。

本稿では、昨年の結果を受けて、必要な機能を備えた匿名による質問が可能なコミュニケーションツール選定し、実際に質問ツールとして活用し、その利用状況とアンケート調査の分析を行う。

2. 匿名質問を活用した授業実践

2.1 ツールの選定

Slack (Searchable Log of All Conversation and Knowledge) は、グループチャットや1対1のダイレクトメッセージなどが利用できるオンラインメッセージングアプリである。メールアドレスだけで登録することが可能であり、匿名で利用することが可能である。また、投稿へのリアクションや通知機能を備えており、必要な機能を満たしている。

2.2 授業での実践

対象とした授業は、理工学部一年生を対象とした専門導入科目であり、2022年度後学期にオンデマンド形式のオンライン授業で実施した(履修者104名)。

授業では、Microsoft Teams での授業動画閲覧、課題提出に加えて、Teams チャネル、Teams チャット、電子メールおよび Slack による質問受付を行った。Slack の利用は任意とし、成績に反映しなかった。

実践期間は2022年11月30日～2023年1月27日(第9回から第13回の6回授業)で、利用者は32名(約30%)であった。この期間の質問数は40件(電子メール13、Teams 個別チャット12、Slack 投稿欄8、Slack ダイレクトメッセージ7)であった。

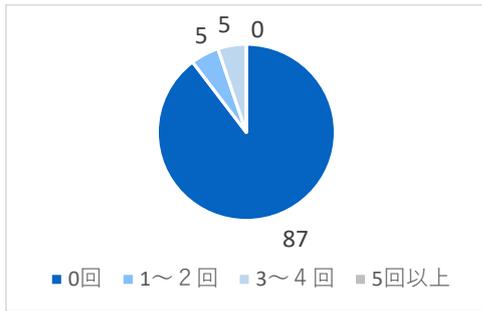
3. アンケート結果と考察

アンケートには93名(約89%)が回答した。アンケート回答結果の抜粋を図1に示す。質問回数(Q1)では87名(約94%)が0回と回答し、質問を行っていないかった。質問手段の選択理由としては、「気軽さ」、「説明しやすい」、「早く解決できる」など、解決を優先する傾向がみられた。

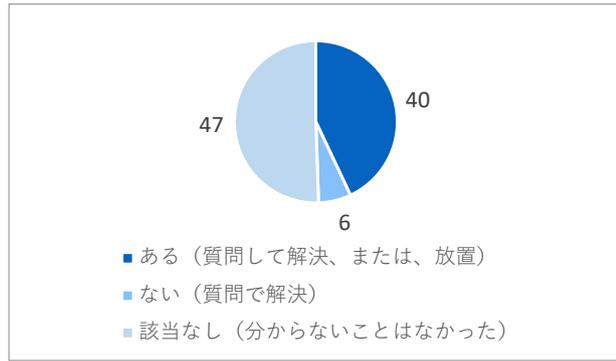
一方で、他の学生に知られずに質問できるからという意見や、やりとりが投稿欄に残らないからという意見もあり、他者の目を気にしていることも改めて示された。

また、わからないことがあったのに質問しなかったことはあるかという問い(Q6)には、40%があると回答したが、その理由(Q7)は「質問せずに解決できた」ためであった。その内訳は自分で調べて解決が36%、自分でよく考えて解決が32%、友達に聞いて解決が23%であった。一方で、質問するのをためらったという回答が4件(5%)あった。Slack 導入のメリット(Q21)では、「匿名で質問できる安心感」、「抵抗なく質問できる」など匿名性により、安心感や抵抗感の軽減が示された。

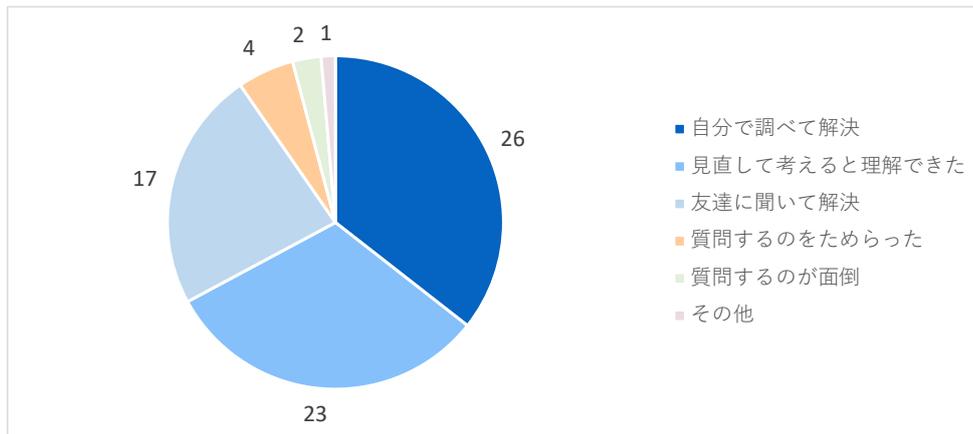
Slack と Teams ではインタフェースや利用方法が異なり、使いやすさなど匿名性以外の要素もあるため単純に比較はできないが、匿名で質問可能な手段を設けることが、質問へのためらいや疑問点の放置を減らすことへつながる可能性が示された。一方、質問数への影響は限定的であり、その背景として、質問の共有への意識が低いことが推察される。



Q1. 授業での質問回数



Q6. 質問をしなかったことの有無



Q7. 前問で「ある」の理由



Q21. Slack 導入のメリット

図1 アンケート結果抜粋 (Q1, Q6, Q7, Q21)

4. まとめと今後の課題

本稿では、大学での授業において、オンラインで匿名での質問を受け付けることが、学生の質問に対する抵抗感にどのように影響を与えるかを調査・分析した。匿名で質問可能なコミュニケーションツールの利用状況とアンケート調査の分析から、質問へのためらいと疑問点の放置を減らすことへの影響が認められ、匿名による質問は一定の効果があると考えられる。

一方で、質問数の目立った増加は無く、匿名でも質問をためらった事例もあり、その原因分析および

解決に向けた取り組みの検討は今後の課題である。

参考文献

- (1) 無藤隆, 久保ゆかり, 大嶋百合子: “学生はなぜ質問をしないのか?”, 心理学評論, 23 巻, 1 号, p. 71-88 (1980)
- (2) 藤井利江, 山口裕幸: “大学生の授業中の質問行動に関する研究: 学生はなぜ授業中に質問しないのか?”, 九州大学心理学研究 4, pp.135-148 (2003)
- (3) 岡崎泰久, 脇山瞳: “質問に対する学生の意識調査に基づく匿名質問掲示板の基本要件の検討”, 教育システム情報学会第47回全国大会講演論文集, pp.229-230 (2022)